

大宮駅東口周辺 公共施設再編／公共施設跡地活用 全体方針（たたき台）

～大宮駅周辺地域戦略ビジョンを実現するための地区別整備計画の策定に向けて～

序. はじめに	1
1. 大宮駅東口のまちの特徴.....	3
2. 大宮駅東口における公共施設等の現状	4
3. 公共施設再編による「連鎖型まちづくり」.....	6
4. 公共施設再編／公共施設跡地活用の方針	8
5. 地区別整備の推進に向けた進め方.....	12

平成29年 3月29日

大宮駅東口周辺公共施設再編推進本部会議

序. はじめに

(1) 検討の背景

大宮駅周辺地域では、平成22年に策定した「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」（以下、「戦略ビジョン」という。）に基づき、おもてなしあふれる東日本の顔となるまちを目指して、市民と一体となってまちづくりを推進しています。

戦略ビジョンの策定から約7年が経過し、大宮駅東口周辺では大宮区役所や市民会館おおみや、大宮図書館などの移転が決定するなど、具体的なまちづくりが動き出そうとしています。こうした取組みは、戦略ビジョンに位置付けられている優先プロジェクト「公共施設再編による連鎖型まちづくり」の一環として進めているものです。

また、平成27年度に策定された首都圏広域地方計画では、「大宮」が東日本の玄関口として位置付けられ、多種多様なヒト、モノが集結する対流拠点としての役割が求められています。

大宮駅東口の周辺に点在する耐震性や老朽化などの問題を抱える公共施設を集約・複合化することで、生み出された用地を連鎖的にまちづくりに活用し、駅周辺の再開発や基盤整備などと連携して戦略ビジョンの実現と、東北圏・北陸圏・北海道連結首都圏対流拠点の形成を目指します。

具体的には、大宮区役所の移転、大宮図書館との合築・複合化により、埼玉県大宮合同庁舎の敷地に移転することで、大宮駅とさいたま新都心駅のちょうど中間の位置に地域サービスの機能を集積し、まちの奥行きを深めていくとともに、さいたま新都心周辺地域との継がりを強化していくことがねらいです。

また、駅前のまとまった公共用地である大宮区役所の敷地を、駅周辺のまちづくりを進めていく起点として積極的に活用し、駅周辺の更なる賑わいの創出や都市機能の強化を図り、まちの魅力を高めていくことがもう一つのねらいです。

今後の取組みとして、移転が決まっている大宮区役所や市民会館おおみやなどの公共施設跡地の活用の方針や、将来の方向性が決まっていない大宮駅東口周辺の公共施設の方針を定めるなど、戦略ビジョンを実現していくための具体的な行動計画（アクションプラン）を全体方針として定めていく必要があります。

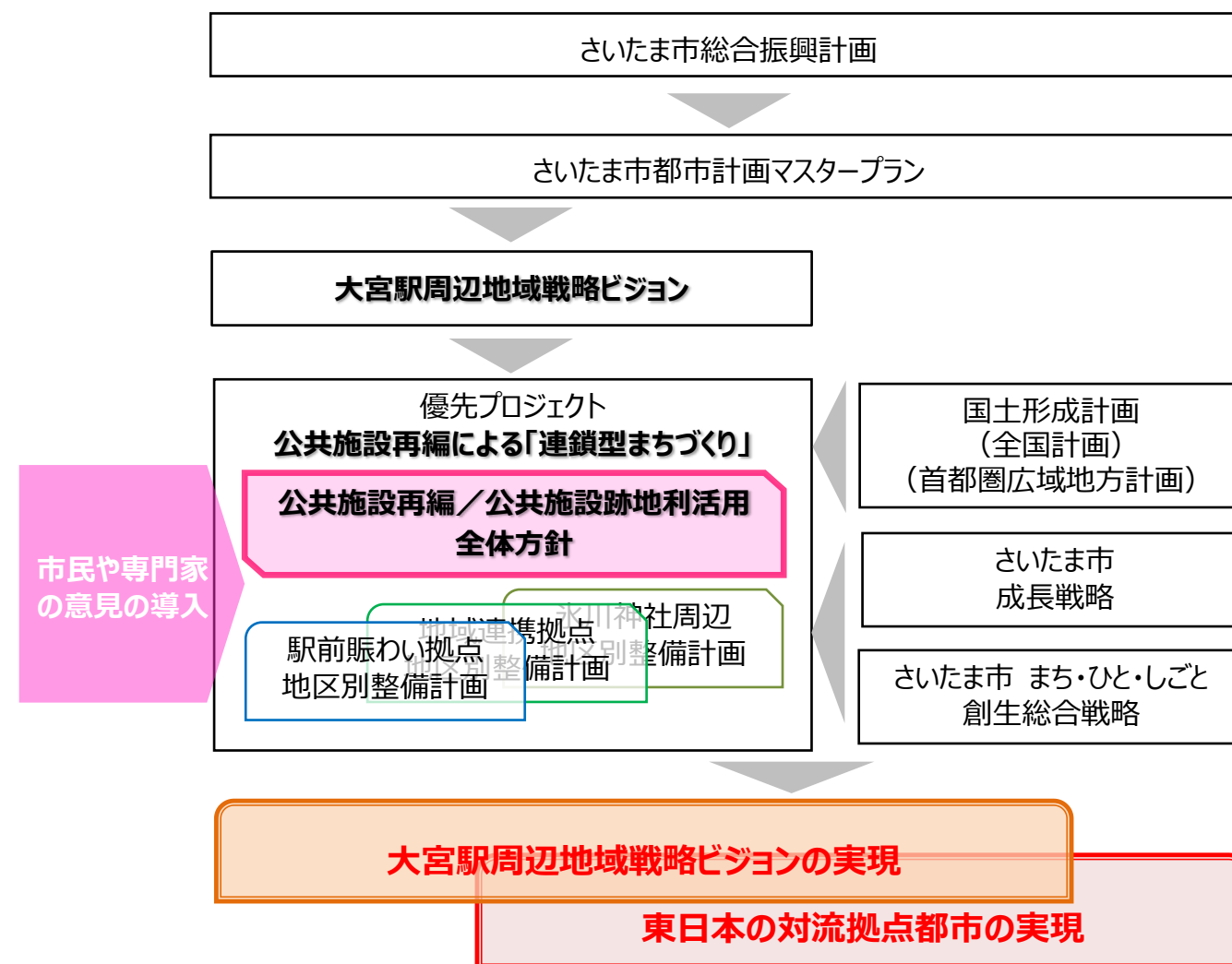
大宮らしさを活かし、新たな魅力や価値を創出していくためには、市民の財産である公共施設、公共用地を積極的かつ戦略的に活用しながらまちづくりを進めていく必要があります。今後の具体的な整備計画策定にむけ、大宮駅東口のまちの特徴をしっかりと理解するとともに、市民の意見・専門家の意見を積極的に取り入れながら進めることが大変重要です。

本方針は、こうした大宮を取り巻く環境を踏まえ、大宮駅周辺地域を戦略ビジョンで掲げる将来像を実現していくための具体的な方針を位置付け、市民・事業者の皆様と行政との協働によるまちづくりに全力で取り組んで行くことを目的としております。

(2) 本方針の位置付け

本方針は、さいたま市総合振興計画、さいたま市都市計画マスタープランを上位計画とし、平成27年度に策定された国土形成計画及び首都圏広域地方計画における大宮に関するプロジェクトとともに、大宮駅周辺地域戦略ビジョンの実現に向けて、詳細な方針を示すものです。

戦略ビジョンでは、優先プロジェクトを推進していくため、「地区別の整備計画」や「ガイドライン」を策定していくこととされています。本方針は、公共施設とその跡地を中心とした地区における整備を早期に実現するため、施設及び用地を管理するさいたま市としてその方針を明らかにし、市民や専門家の意見を積極的に取り入れ、市民と共有できる方針として策定するものです。



(3) 本方針の構成

本方針は、右図に示すように、この序章に続き、1. から5. の5章で構成しています。

「1. 大宮駅東口のまちの特徴」では、戦略ビジョンの策定から約7年間が経過していることから、この間の社会経済状況の変化も踏まえて、地区ごとの特色を中心に、現在の大宮駅東口のまちの特徴を整理しています。

「2. 大宮駅東口における公共施設等の現状」では、実際に大宮駅東口にはどのような公共施設があり、その置かれている状況や現状の計画がどうなっているのかを整理しています。

(1) では、大宮駅東口にある公共施設とその立地などの情報を整理します。

(2) では、公共施設再編を考える上で前提となる、市で策定した公共施設マネジメントの計画について確認します。

「3. 公共施設再編による「連鎖型まちづくり」」では、大宮駅東口における公共施設再編／公共施設跡地活用を進めるにあたっての、全体的な考え方を示しています。

(1) では、タイトルにもある「公共施設再編による『連鎖型まちづくり』』とはどのような考え方を、戦略ビジョンを基に説明します。

(2) では、再編・連鎖型まちづくりの対象となる施設や施設跡地を抽出し、その立地に基づきまちづくりを進める単位となるエリアを整理して対象地区を設定しています。

「4. 公共施設再編／公共施設跡地活用の方針」では、はじめに大宮駅東口周辺地域の公共施設再編ならびに公共施設跡地活用の全体的な方針を位置付け、その後それぞれの拠点／エリアごとに、整備計画の基礎となる方針を、主に導入する機能（施設）やまちづくりの観点から、アクションプランとしてフェーズ（段階）を追う形で整理します。

最後に「5. 地区別整備の推進に向けた進め方」では、公共施設再編／公共施設跡地活用に向けた地区別整備計画を策定するための検討体制と、市民の皆様との関わり方について整理します。

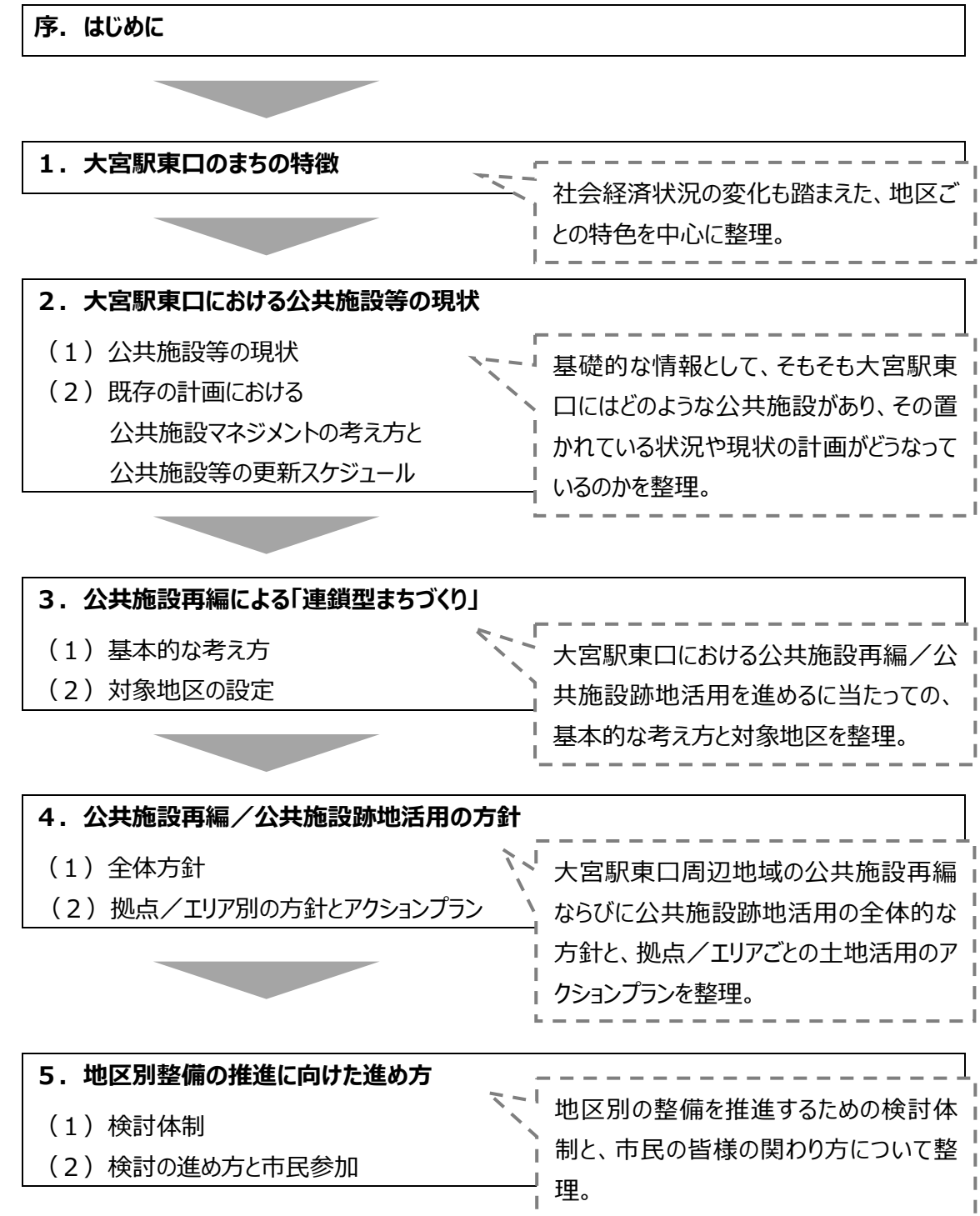


図 本方針の構成

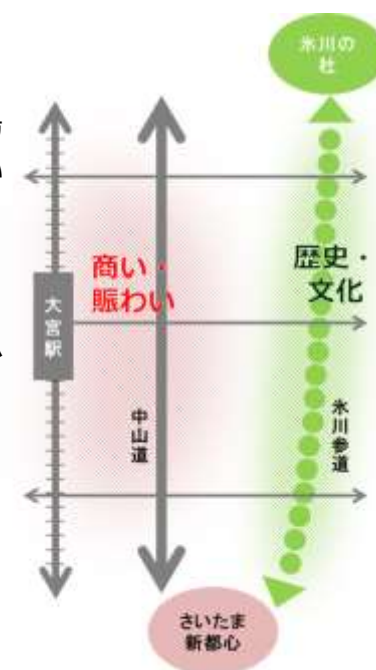
1. 大宮駅東口のまちの特徴

大宮駅の東口から氷川参道周辺にかけてのエリアは、様々な特徴がコンパクトに凝縮された、文化度の高い、都市生活が満喫できる多様性のあるまちです。大宮駅を中心とした駅周辺エリアの特徴「**高い・賑わい**」と、氷川参道の沿道がかもし出す「**歴史・文化**」という、2つの個性を備えています。

大宮駅東口周辺は、大宮区役所や大宮図書館の移転、市民会館おおみやの再開発ビルへの導入などによって、まちの姿を大きく変えようとしています。駅及び駅前周辺街区の**ターミナル街区**では、鉄道事業者や関連まちづくり団体、学識、行政などによって「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」の具体的な検討が始まっています。こうした大宮駅東口のまちづくりを取り巻く環境が大きく変化中、点在する公共施設やその跡地を積極的に活用し、着実にまちを更新していくことが、これからの大宮駅東口に求められています。

【大宮駅東口のまちの構造】

- 大宮駅の東口は、南北方向の中山道に沿った宿場町として発展してきました。現在のまちの主な賑わいは、駅前から中山道に沿って形成されています。
- 中山道に並行してまちの東側をはしる氷川参道は、地域が誇る、歴史・文化の薫り高い空間です。
- また、氷川参道の周辺には、大宮区役所、大宮小学校を始め、多くの公共施設が点在しています。



2. 大宮駅東口における公共施設等の現状

(1) 公共施設等の現状

大宮駅東口周辺には、氷川参道沿いを中心に多くの公共施設が立地しています。

それらの多くは、建築後40年～50年が経過し老朽化や耐震性に課題を抱える施設です。

そのため、大宮区役所を始め大宮図書館、市民会館おおみやなど既に移転・建替えなどの計画が決定している施設があります。

今後は、建替えなどの計画が決まっていない周辺の公共施設の具体的な計画や、移転後の公共施設跡地の活用の方針について整理していきます。

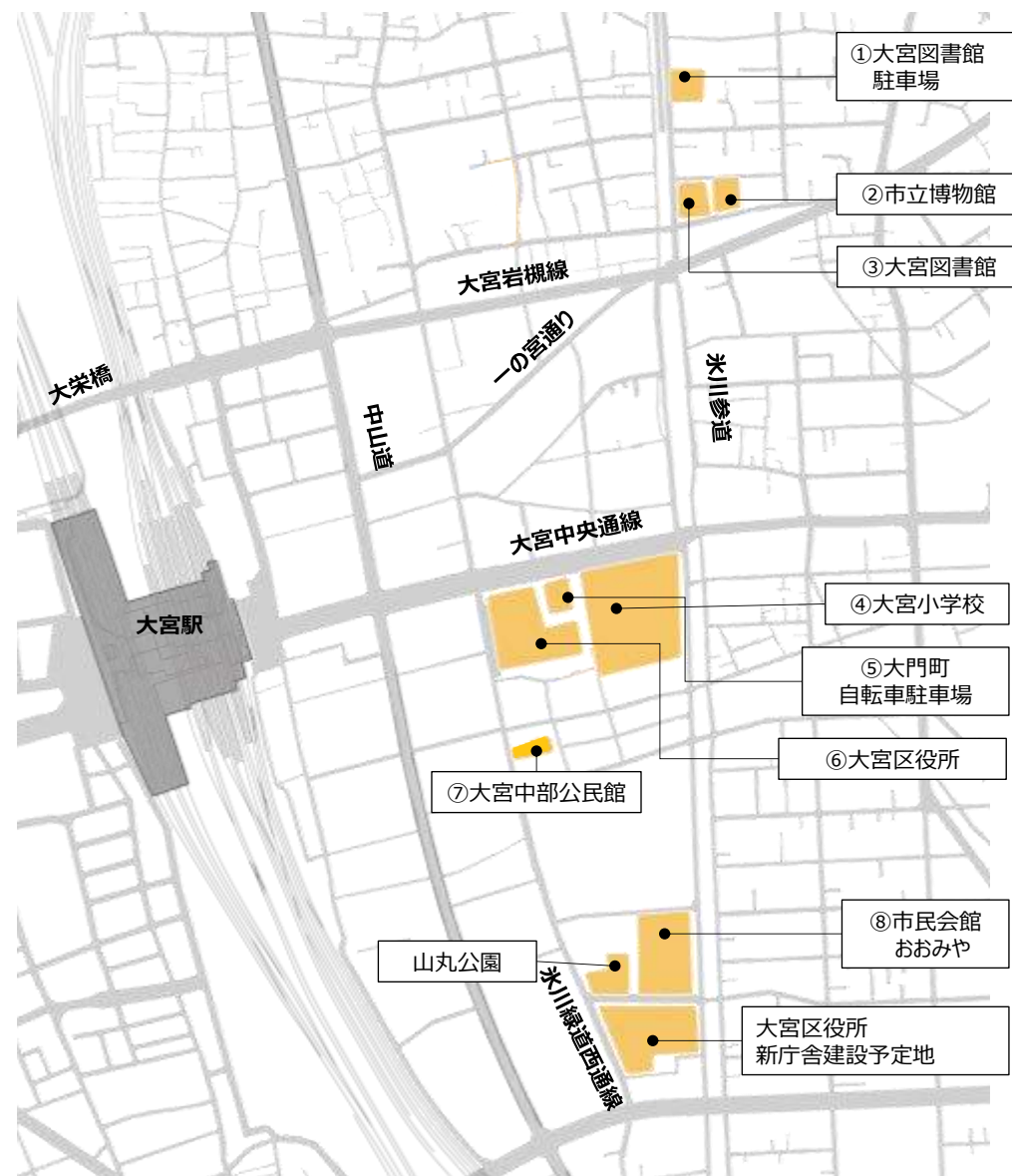


図 大宮駅東口における公共施設の立地状況

名称	①大宮図書館駐車場 敷地面積[1,318m ²] 延床面積[1,318m ²]	②市立博物館 敷地面積[1,571m ²] 延床面積[2,330m ²]	③大宮図書館 敷地面積[2,534m ²] 延床面積[3,521m ²]
建築年次	-	昭和 55 年 (1980 年) ※築 37 年	昭和 47 年 (1972 年) ※築 45 年
機能	自動車駐車場	展示部門 (常設展示室、特別展示室等)、 教育部門 (講座室、ラウンジ等)、収蔵部 門 (収蔵庫) 研究部門 (工作室、スタジオ、 暗室、文献史料室等)、管理部門	図書館、会議室、視聴覚ホール、展示ホー ル
外観			

名称	④大宮小学校 敷地面積[17,401m ²] 延床面積[8,269m ²]	⑤大門町自転車駐車場 敷地面積[1,280m ²] 延床面積[2,923m ²]	⑥大宮区役所 敷地面積[7,124m ²] 延床面積[12,897m ²]
建築年次	昭和30年 (1955年) ※築62年	昭和61年 (1986年) ※築31年	本館・南館 : 昭和 41 年 (1966 年) ※築 51 年 東館: 昭和32年 (1957年) ※築60年
機能	小学校、幼児教育センター附属幼稚園併設	自転車駐車場	区役所、建設事務所、PTA協議会、商工会 議所支所社会福祉協議会等
外観			

名称	⑦大宮中部公民館 敷地面積[472m ²] 延床面積[611m ²]	⑧市民会館おおみや 敷地面積[6,829m ²] 延床面積[7,315m ²]	③大宮図書館と⑥大宮区役所は合築・移転 予定です(H31.5予定) ⑧市民会館おおみやは、大門町2丁目中地区 再開発ビルに移転予定です(H33予定)
建築年次	昭和 53 年 (1978 年) ※築 39 年	昭和 45 年 (1970 年) ※築 47 年	
機能	会議室、レクリエーションホール、調理 室、和室 等	大ホール、小ホール、集会室 等	
外観			

(2) 既存の計画における公共施設マネジメントの考え方と公共施設等の更新スケジュール

市では、全市的な公共施設再編の方針として「さいたま市公共施設マネジメント計画第1次アクションプラン（平成26年3月）」を策定しています。なお、分野別アクションプランにおいては、施設の細分類ごとに更新時の方向性、配置の考え方を定め、学校や博物館を核として、コミュニティ施設や文化施設の集約を図っていくことが、市の財政面からの要請に応えることとなります。その際には、地域の利便性等に配慮しつつ、まちづくりの将来像の実現に貢献し、その具体的な姿を市民や関係者と合意形成を図ることが大切です。

既存の計画における公共施設マネジメントの考え方

ハコモノ3原則

- 新規整備は原則として行わない
(総量規制の範囲内で行う)
- 施設の更新(建替)は複合施設とする
- 施設総量(総床面積)を縮減する
(60年間で15%程度の縮減が必要)



インフラ3原則

- 現状の投資額(一定財源)を維持する
- ライフサイクルコストを縮減する
- 効率的に新たなニーズに対応する

対象施設		現在決まっている更新スケジュール									
		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35(年度)	
庁舎等	⑥大宮区役所			●	●	★					
				新庁舎工事		移転・新庁舎供用開始					
小学校	④大宮小学校				●	●	●	●			
				基礎調査		設計		大規模改修			
市民文化施設	⑧市民会館おおみや			●					●	★	
				工事(再開発)					移転・供用開始		
図書館	③大宮図書館									★	
				移転・供用開始							
博物館資料室	②さいたま市立博物館				●	●					
				大規模修繕(予定)							
公民館	⑦大宮中部公民館								●	●	
									設計		大規模改修
駐車場	①大宮図書館駐車場										
	⑤大門町自転車駐車場										
		※中・大規模改修などの予定なし									
		※中・大規模改修などの予定なし									

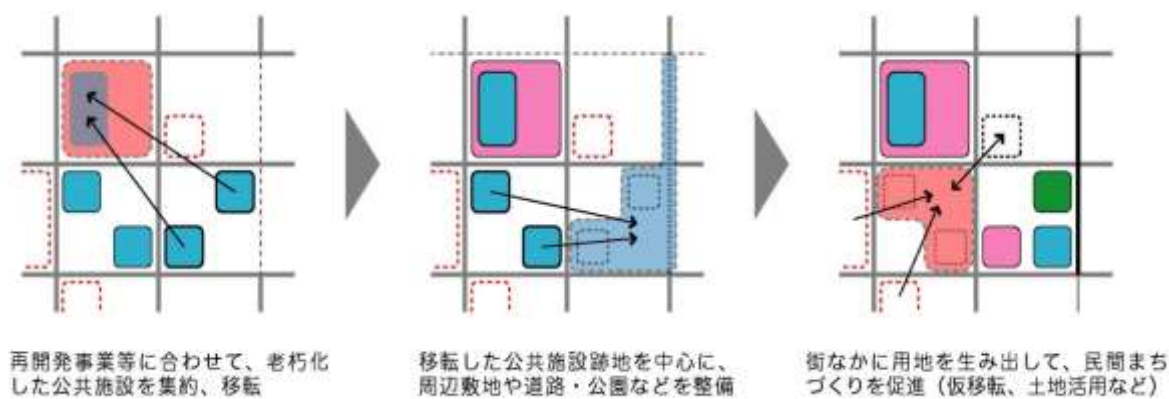
※なお、更新スケジュールは、平成29年3月時点のスケジュールであり、本方針では既存の計画の枠組みを超えた取組みを整理

3. 公共施設再編による「連鎖型まちづくり」

(1) 基本的な考え方

本方針は、序.(2)で記載したとおり、戦略ビジョンに基づき、公共施設とその跡地を中心として「地区別の整備計画」を策定するための方針です。

戦略ビジョンには、優先的に取り組むべき4つのプロジェクトのひとつに、「公共施設再編による『連鎖型まちづくり』」が挙げられています。公共施設用地や大規模用地の再編・土地利用転換などをきっかけとして、まちづくりに活用できる土地を創出し、連鎖的に駅周辺地域内のまちづくりの活性化を図るとともに、高次都市機能の導入や基盤整備、公共空間や機能の導入を図る取組みです。



出典：「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」

図 「公共施設再編による『連鎖型まちづくり』」の展開イメージ

現在、大宮駅東口周辺では、公共施設再編による『連鎖型まちづくり』が推進されており、「平成31年度に大宮区役所新庁舎が供用を開始し、大宮図書館と複合化すること」、また、「市民会館おおみやが平成33年度竣工予定の大門町二丁目中地区の再開発ビルに機能移転すること」が決定しています。



図 現在決まっている公共施設の移転予定

(2) 対象地区の設定

大宮駅東口周辺の公共施設は、まちの骨格となる歴史文化軸である氷川参道に沿って、下図のとおり
 (1) 駅前賑わい拠点 (大宮区役所・大宮小学校地区)、(2) 地域連携拠点 (市民会館おおみや・山丸公園地区)、(3) 氷川神社周辺エリア (大宮図書館・市立博物館地区) の3つのまとまりを形成し分布しています。

これらのまとまり(地区)単位で公共施設の集約化・複合化等を検討し、新たに生み出された用地をまちづくりに活用することで、駅周辺の再開発や基盤整備を『連鎖的』に進めます。

このような氷川参道沿いの公共施設の再編や利活用を積極的に進めることで、大宮駅前周辺の「賑わい」を氷川参道へつなぎ、氷川参道沿いに醸し出されている「歴史・文化」の薫りをまちなかへと取り込み、それぞれの多様な個性が交じり合う“まちの奥行き”を深めていきます。



図 大宮駅東口における公共施設再編方針図

4. 公共施設再編／公共施設跡地活用の方針

(1) 全体方針

大宮駅東口周辺では「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」（平成22年5月）で描く将来像の実現に向けて、公共施設の再編を積極的に推進し、連鎖的にまちづくりを進めていきます。

まちづくりの具体化に向けて、今後はそれぞれの公共施設や公共施設跡地の活用にあたり、地区ごとに整備計画を策定していくことになります。

そのために、はじめに大宮駅東口周辺地域の公共施設再編ならびに公共施設跡地活用の全体的な方針を位置づけると共に、その全体方針に基づく拠点／エリアごとに土地活用のアクションプランを定めます。

大宮駅東口周辺公共施設再編／公共施設跡地活用 4つの全体方針（案）

<全体方針①：東日本連携>

東日本を支える拠点都市としてまちづくりを推進！

- ・ 首都圏対流拠点としての役割を実現するため、東日本との連携強化を目指します。
- ・ さいたま新都心周辺地域との連携を強化し、交通ネットワーク拠点である大宮と、災害時の首都圏バックアップ拠点であるさいたま新都心との一体的なまちづくりを推進します。

<全体方針③：公民連携>

積極的に民間の力を導入！

- ・ 積極的に民間事業者や民間団体の力を導入していくことや、アーバンデザインセンター大宮と連携することで、行政だけでは実現困難な魅力的なまちづくりを推進します。
- ・ 実際のまちづくりにあたっては、公民の連携にとどまらず、時には民間が主体となることも視野に入れ、推進します。

<全体方針②：個性の継承>

個性を失わず大宮の魅力を更に強化！

- ・ 公共施設の再編によって都市の機能強化や合理化を進めつつも、今ある大宮の個性を最大限活かします。
- ・ まちの魅力や価値を高めるため、多様な価値観を受け入れられる寛容性を備えつつ、点在する個性豊かで魅力的な地域資源を活かし、大宮らしい個性とつながり・交わりを持ったまちづくりを進めます。

<全体方針④：市民との共有>

市民と将来像を共有しながら推進！

- ・ 公共施設、そして公共用地は、大切な市民の財産として、その将来像の実現に向けて、市民の皆様と想いを共にしながら推進します。
- ・ 今後の具体的な整備計画の策定に向けて、市民意見を積極的に導入し、将来像を共有しながら具体化を図ります。今後の具体的な整備計画の策定に向けて、市民意見を積極的に導入し、将来像を共有しながら具体化を図ります。

(2) 拠点/エリア別の方針とアクションプラン

3.(2)で設定した地区について、整備計画の基礎となる基本方針及び、導入する機能やまちづくりの観点から、段階（PHASE）ごとの行動計画（アクションプラン）を示します。

駅前賑わい拠点（大宮区役所・大宮小学校地区）

【土地活用基本方針：第1段階】

駅周辺の基盤整備等を推進するために、駅前の機能の一時的な機能移転先となるまちづくり用地として活用します。

【土地活用基本方針：第2段階】

駅周辺の基盤整備が概ね完了後は、大宮区役所跡地と大宮小学校用地等の一体的な土地活用を行います。

活用にあたっては、民間事業者との連携を図ることで、大規模な都市機能を導入し、東日本を支える広域交流拠点の形成の実現を目指します。

駅周辺のまちづくりにあわせて、段階的な土地活用を推進します。



現況施設配置図/位置図

対象施設：

- ・大宮区役所（敷地面積7,124㎡、本館・南館：昭和41年建築、東館：昭和32年建築、平成31年度機能移転予定）
- ・大宮小学校（敷地面積17,401㎡、延床面積8,269㎡、昭和30年建築）
- ・大門駐車場（敷地面積1,280㎡、延床面積2,923㎡、昭和61年建築）
- ・大宮中部公民館（敷地面積472㎡、延床面積611㎡、昭和53年建築）



大宮区役所移転後は、一時的な公共空間の利活用を推進します



- 大宮区役所現庁舎は耐震性に課題があることから、新庁舎の供用開始後は速やかに解体します。
- 解体後の大宮区役所跡地は、都市再生推進法人等のまちづくり組織と連携し、一時的な公共用地・公共空間の利活用を行います

Action 1 大宮区役所
現庁舎の解体

Action 2 一時的な
公共空間の利活用

駅周辺まちづくりのための一時的な機能移転先として活用



- 駅前広場などの基盤整備や周辺のまちづくりを推進するための機能移転先として土地活用します。
- 大宮区役所跡地に隣接する大宮小学校については、将来の土地活用の具体化に備え、学校施設の再編なども視野に検討を行います。

Action 3 駅周辺のまちづくりのための
機能移転先として土地活用

Action 4 大宮小学校の将来の
方向性について検討

区役所跡地及び教育施設用地を一体的かつ複合的に活用



- 駅周辺の基盤整備が概ね完了後は、隣接する大宮小学校と一体的に活用することを前提として、広域交流拠点の形成に向けた都市機能の導入や、シンボル都市軸の整備を行います。
- 大宮小学校との一体的活用にあわせて、大宮中部公民館の機能を導入します。

Action 5 大宮小学校へ
大宮中部公民館の
機能を移転

Action 6 大規模かつ一体的な土地活用によって、
東日本の広域交流拠点の形成を実現

地域連携拠点

(市民会館おおみや・山丸公園地区)

【土地活用基本方針】

大宮駅東口周辺の公共施設や都市機能を集約することで、大宮駅とさいたま新都心駅の間に位置する拠点としての機能を強化し、地域間の連携を促進します。

民間事業者との連携も検討し、日常的には周辺の緑と調和した憩いの空間と一体的な交流・歴史・文化等の場として、有事の際には区役所機能と連携した安心安全の拠点としての整備を目指します。



現況施設配置図／位置図

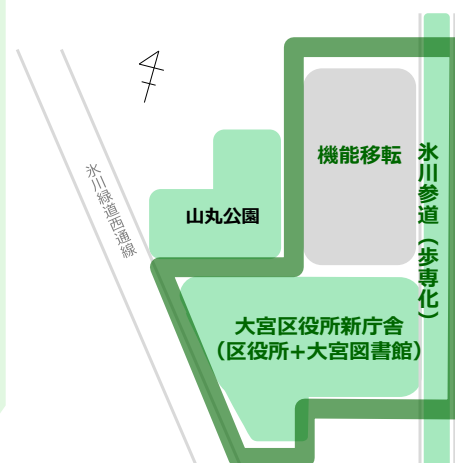
対象施設：

- ・市民会館おおみや（敷地面積6,829㎡、延床面積7,315㎡、昭和45年建築、平成33年度機能移転予定）
- ・山丸公園（敷地面積2,800㎡）
- ・大宮区役所新庁舎／新大宮図書館（敷地面積7,700㎡、延床面積18,000㎡）

PHASE 1

短期
(概ね～5年)

大宮区役所新庁舎と氷川緑道西通線(南区間)の完成



- 氷川緑道西通線（南区間：大宮中央通り～南大通東線間）が開通します。それに伴い、氷川参道の一部区間を歩行者専用化することで、大宮とさいたま新都心を結ぶ歩行者の回遊性が強化されます。
- 大宮区役所新庁舎が供用を開始し、現大宮図書館は新庁舎内へと機能移転します。
- 大門2丁目再開発ビルが竣工し、現市民会館おおみやは再開発ビルへ機能移転するとともに、老朽化や耐震性に課題を抱える現市民会館は解体します。

Action 1

氷川緑道西通線
(南区間)の開通/
氷川参道一部区間
の歩行者専用化

Action 2

大宮区役所新庁舎の
供用開始(大宮図書
館の機能移転)

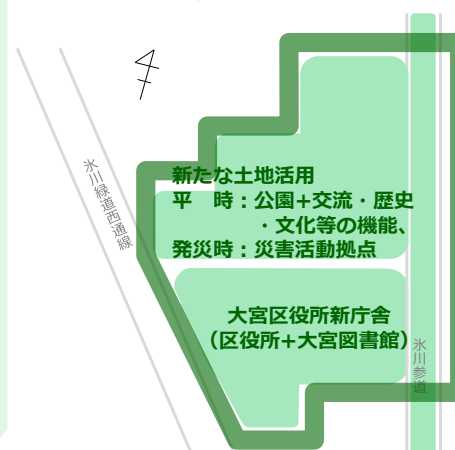
Action 3

現市民会館おおみや
の機能移転

PHASE 2

中期
(概ね5～10年)

市民会館おおみや跡地と山丸公園の一体的活用



- 市民会館おおみや跡地と山丸公園を一体活用することで、創出されたオープンスペースや区役所新庁舎と調和をとりつつ、交流・歴史・文化等の機能及び大規模災害時には災害活動拠点として機能できるよう整備を図ります。

Action 4

市民会館おおみや跡地と
山丸公園の一体的活用

氷川神社周辺エリア (大宮図書館・市立博物館地区)

【土地活用基本方針】

氷川参道沿いという立地に相応しい魅力的な土地活用を行います。
検討にあたっては、積極的に公民連携手法を活用しながら、周辺の氷川神社や賑わい交流軸、大宮公園、野球場やサッカースタジアムなどの地域資源と調和した活用を図ります。



現況施設配置図／位置図

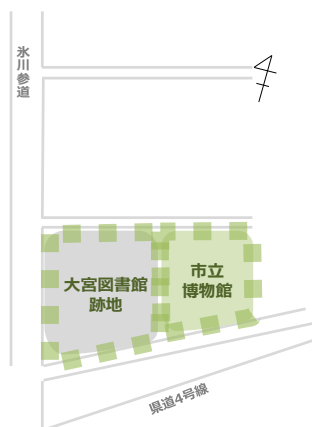
対象施設：

- ・大宮図書館（敷地面積2,534㎡、延床面積3,521㎡、昭和47年建築、平成31年度機能移転予定）
- ・大宮図書館駐車場（敷地面積1,318㎡）
- ・市立博物館（敷地面積1,571㎡、延床面積2,330㎡、昭和55年建築）

PHASE 1

短期
(概ね5年)

大宮図書館跡地、市立博物館用地のあり方の検討



- 現大宮図書館機能移転後の建物及び敷地のあり方について検討を行い、必要に応じて暫定的な活用を行います。
- 市立博物館の今後のあり方について検討を行い、その方針が決定した段階で、大宮図書館跡地の活用についても、両用地の一体的活用の可能性も含め検討を行います。

Action 1 現大宮図書館移転後の建物・敷地のあり方の検討

Action 2 市立博物館用地のあり方の検討

PHASE 2

中期
(概ね5～10年)

大宮図書館跡地、市立博物館用地の有効活用



- 大宮図書館跡地並びに市立博物館の用地は、公民連携事業として、氷川参道沿いのエリアとして相応しい魅力ある土地活用を図ります。

Action 3 大宮図書館跡地、市立博物館用地の有効活用

5. 地区別整備の推進に向けた進め方

(1) 検討体制

「大宮駅東口周辺公共施設再編／公共施設跡地活用 全体方針」（以下、「全体方針」という。）では、大宮駅東口周辺の公共施設の再編と公共施設跡地活用の方針を定めるとともに、その後の行動計画も併せて方針として定めます。全体方針の策定後、それぞれの拠点やエリアごとに具体的かつ詳細な検討を行うプロジェクトチームを結成します。

大宮区役所ならびに大宮小学校の検討を行う「駅前賑わい拠点整備推進プロジェクトチーム」では、全体方針に基づき段階的な土地活用を行うことから、〈第1期〉と〈第2期〉に分かれて検討を行います。

市民会館おみやならびに山丸公園の検討を行う「地域連携拠点整備推進プロジェクトチーム」では、大宮区役所新庁舎との一体感のある土地活用を行うことを前提に、全体方針を実現するための具体的かつ詳細の検討を行います。

そして、大宮図書館ならびに市立博物館が立地するエリアの検討を行う「氷川神社周辺エリア利活用推進プロジェクトチーム」では、大宮図書館跡地、市立博物館用地のあり方を検討し、資産の有効活用に向けた検討を進めていきます。

(2) 検討の進め方と市民参加

公共施設や公共用地は、市民が利用する大切な財産です。そのため、公共施設や公共用地の将来のあり方を左右する方針や計画の検討は、アーバンデザインセンター大宮と連携しながら、市民の皆様の意見を積極的に導入し、広く共有できるものとしていくことが大切です。

全体方針の策定ならびにその後の各拠点、各エリアの具体的な土地活用の実現にあたり、適切なタイミングで市民の皆様からの意見をいただくとともに、専門家のアドバイスを参考としながら、まちづくりを推進していきます。

全体方針では、公共施設の再編と公共施設跡地の活用についての全体的な方針を定めるだけでなく、それぞれのフェイズごとに、市民、そして専門家からの意見を積極的に導入していくことも併せて、方針として定めます。

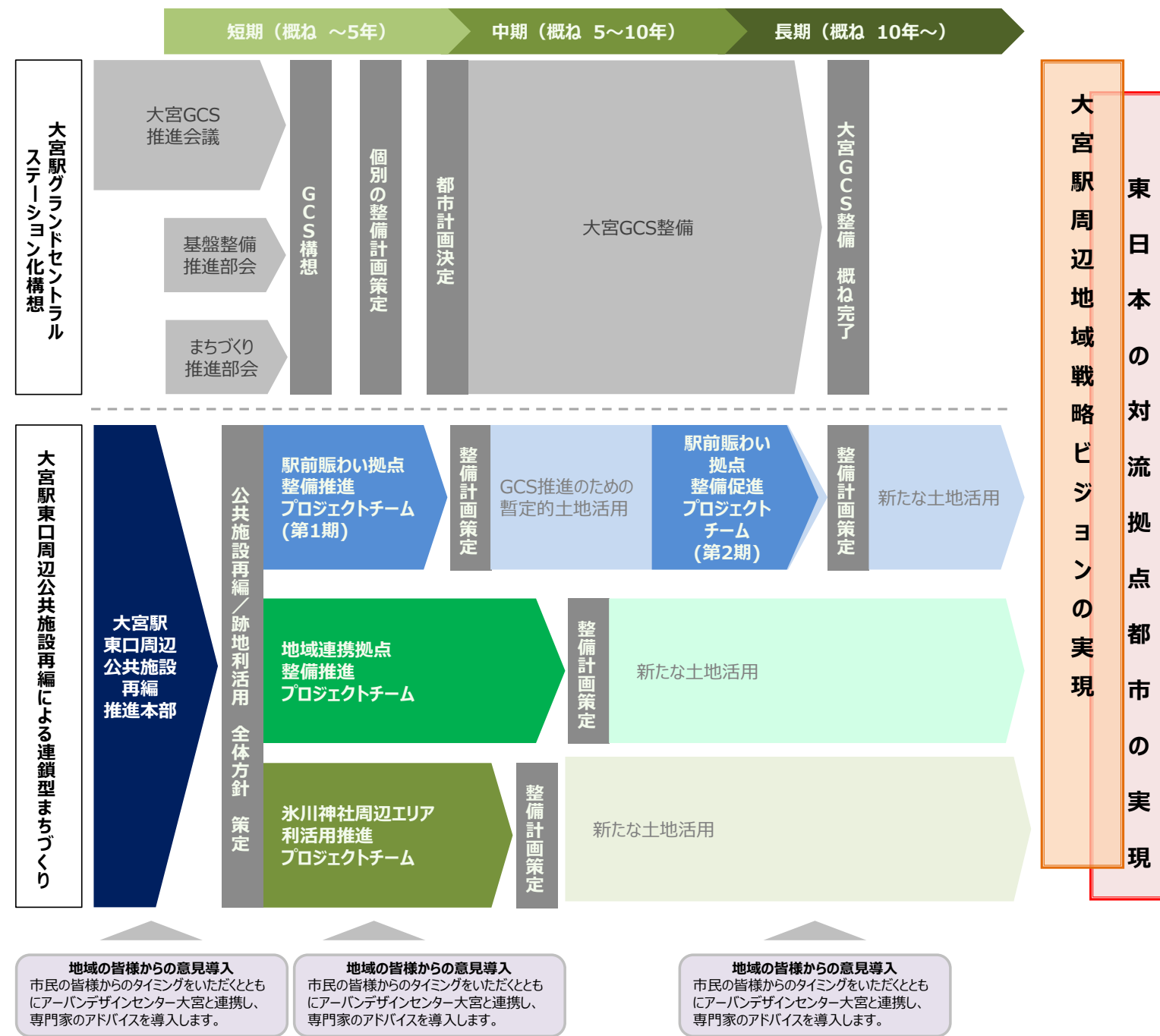


図 地区別整備計画の策定に向けた進め方